

兵庫県における水辺での遊びの変遷について —武庫川上流域の三田市「曲がり」での調査分析—

嶽山 洋志¹⁾・客野 尚志¹⁾・赤澤 宏樹^{1)*}・藤本 真里^{1)*}
宮崎 ひろ志^{1)*}・田原 直樹^{1)*}・中瀬 勲^{1)*}

A Report on the History of Play Activity on the Waterfront, Hyogo —Investigation analysis in the Highest Area of the Muko River, Magari area, Sanda city—

Hiroshi Takeyama ¹⁾, Takashi Kyakuno ¹⁾, Hiroki Akazawa ^{1)*}, Mari Fujimoto ^{1)*},
Hiroshi Miyazaki ^{1)*}, Naoki Tahara ^{1)*}, and Isao Nakase ^{1)*}

要 旨

近年、河川空間におけるエコアップなどの自然再生・創造が各地域で盛んであるが、それと並行して管理体制や活用プログラムといったマネジメントの視点も必要とされている。本報告では、そのマネジメントに寄与する基礎的情報として、兵庫県全域で親世代と子ども世代における遊びの変化の実態を把握するとともに、特に武庫川流域の三田市「曲がり」地区を対象として、そこでの遊びと環境の変化の関係について捉えた。その結果、以下のようなことが明らかとなった。

1. 自然遊び、特に川遊びの減少が兵庫県全域で見られた。
2. 武庫川上流域での遊びにおいては、単に河川だけでなく森林や水田など複数の土地利用が一体的に活用されていた。

キーワード：武庫川，川遊び，土地利用

はじめに

現在、様々な地域の河川空間において、エコアップなどスポット的な自然再生・創造が実施されている。これらに共通して課題視されている事項として、自然地のマネジメントの必要性が挙げられている（島村ほか，2002）。つまり、単に自然地を再生するだけでなく、そこをいかに使いこんでいくか、いかに管理していくかというマネジメントの視点が必要とされるのである。武庫川で実施されている桜づつみ回廊計画についても同様で、ランドスケープだけでなくその回廊の中にも含まれる多様な活動イメージを提案していかなくては、名所としても昇華していかないだろう。

三田市の総合計画でも行政の役割として「市民が河川に親しめる場と機会を提供する」ことがうたわれて

おり（三田市，2002），その具体的な空間として武庫川が挙げられているが，本研究ではその武庫川を対象に，「遊び」という視点でその人と河川の関わりを検討することにした。「遊び」は大多数の市民が人生において経験し，身近な行為として認知されているものである。また，人間にとって水辺は他の場所と違った異空間として認知され，非日常であり，時として新たな挑戦の場である。それだけに子供にとっては新しい発見や危険すら伴う場合もあり，創造力を高めてくれる場所であるといえる。しかし，現実には機能を優先させる現代社会において河川空間はないがしろにされ，管理の難しさも手伝い十分に満足できる空間として利活用されていない（安藤・松本，2000）。

子供の遊びに関する研究としては，琵琶湖地域を対象に魚取りなど，子どもの水辺遊びに関する研究があ

¹⁾兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 Division of Environmental Management, Museum of Nature and Human Activities, Hyogo; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

*兼任：姫路工業大学 自然・環境科学研究所 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 Institute of Nature and Environment Sciences, HIT; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

るが(嘉田・遊麿, 2000), 多くは公園や庭園といった空間と現代の子供の遊びとの関係で論じられ(芮, 1995; 後藤ほか, 1996; 神吉ほか, 1999; 小谷ほか, 1999, 2000), 河川空間と子どもの関係に関する研究実績は少ないのが現状である。

本報告では, 兵庫県全域及び武庫川での川遊びが親世代からどのように変化しているかを捉えたものであり, 発掘された当時の水辺空間と子どもの遊びとの関係を, 現代の川遊びに活用しようとするものである。

調査方法

まず, 兵庫県の全市町の行政関連機関でまちづくりに関わっている企画関連の部局を対象に, 2001年6月にアンケート調査を行った。回答は図1および表1に示す31市町からあった。質問の内容は「子供の頃に良く行った遊び」「その遊び場所」「季節」「みかけなくなった遊び」の4項目で, 回答者が勤務する自治体についての回答を得た。解析では昔と今の遊びをそれぞれ「屋内」「屋外(自然系)」「屋外(非自然系)」「祭り」「不明」の5項目に分類し比較検討を行った。次いで, 三田市の武庫川上流部である通称「曲がり」地区においてその周辺住民に対し昔の武庫川遊びについてヒアリング調査を行った。調査は2003年の4月に, 「曲がり」地区の昔の川遊びに詳しい祖父母世代や親世代(計7名)に対して行い, 土地利用との対応を読みとった。

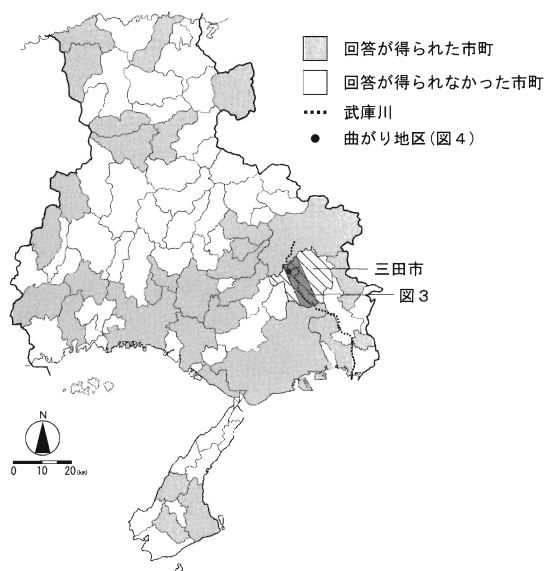


図1 アンケートに対する回答のあった市町

調査結果

1. 兵庫県内での昔の遊びで, 現在では見られなくなった遊び(レッド遊びリスト)の把握

表1に各市町における遊びの内容を, 図2に「親世代」が子どもの頃の遊びと現在の「子ども世代」の遊びの比較を示す。

図2より, 現在見られなくなったと感じている遊びについて見てみると, 大きく2つの遊びが減少してきていることがわかる。一つは「雪遊び」である。積雪量の多い兵庫県の中山間地域では, 「雪合戦(親世代: 5地区, 子ども世代: 1地区)」や「竹スキー(親世代: 4地区, 子ども世代: 1地区)」が行われていた。しかし, 現在では集団での遊びが行われにくくなっていくことや, 遊びに使われる素材が自然物から人工物に変化したため, これらの遊びが減少してきたものと思われる。もう一方が「川遊び(親世代: 11地区, 子ども世代: 4地区)」である。水遊びでは海水浴(親世代: 4地区, 子ども世代: 3地区)が今でも行われていることが伺えるが, 川遊び及びため池遊び(親世代: 3地区, 子ども世代: 1地区)に着目すると, これらの場所は遊び場として使われなくなってきたことが伺える。また, 川遊びの中でも「魚採り・魚釣り(親世代: 13地区, 子ども世代: 2地区)」「虫取り(親世代: 15地区, 子ども世代: 3地区)」など生き物とりの遊びが特に減少してきていることが伺える。以上のことから自然遊びの中で川遊び, 特に川での生き物とりが減少していることが読みとれる。

2. 武庫川(三田市「曲がり」地区)における遊びと遊び場との関係性

図3に三田市の武庫川流域における土地利用の変化を, 図4に親世代の武庫川(「曲がり」地区)及びその周辺環境とそこでの遊びとの関係を示す。前節では兵庫県全体で川遊びが減少してきている現状が伺えたが, ここでは特に三田市の「曲がり」地区に焦点をあて, 川遊びの変遷と空間の変化について, より詳細な遊びの内容及び遊び場の変化の把握を通して検討する。調査対象地について, 三田や三輪などの市街地では土地利用の変化が激しく, 遊びの変化も顕著に伺い知ることが可能であったが, 市街地周辺では適当な回答者が得られなかったことから, 今回の調査では上流の「曲がり」地区のみを対象とした。本地区は, 現在でもホテルがりが行われるなど, 自然の残る地区である。

図4より「曲がり」地区における高度成長期以前の土地利用等の空間特性とそこでの遊びとの関係性を捉

兵庫県における水辺での遊びの変遷

表1 各市町における遊びの内容

市町名	遊び
竹野町	竹スキー キンカン(雪合戦) 川遊び(竹野川) 牛飼い 木の実拾い 魚捕り 山菜採り うさぎ捕り 巡査と泥棒 クギ立て 缶けり 缶下駄 陣取り くず鉄拾い 鬼ごっこ メンコ けんばあ なわとび はないちもんめ 走り 野球 まりつき
但東町	川遊び 竹スキー 山遊び 山や川を利用した遊び(川飛びこみ、かくれんぼ) 釘さし 凧上げ コマ廻し
養父町	川遊び 川原遊び 野球
浜坂町	いなご・バッタ捕り 川遊び セミ捕り かくれんぼ 缶けり 陣取り ベッタン(メンコ)
温泉町	むくろじ遊び(羽子板) 川干し(魚捕り) 流し針(魚つり) ぶちゴマ 杉鉄砲 ベッタン ゴム銃 紙鉄砲
関宮町	基地作り セミなどの虫取り 川魚 つり イナゴ捕り ソリ 水泳(八木川) スキー(八木高原、葛畑) かまくら(裏山) 雪合戦(小学校) 竹とんぼ
大屋町	キンカン 洞窟探検 缶けり 釘とり チャンバラ 陣取り メンコ
篠山市	川遊び イナゴ捕り 石けり ホロ玉鉄砲 コマ廻し メンコ かくれんぼ 野球 縄跳び ドッチボール 釘さし
山南町	石もて 木馬すべり 杉鉄砲 手まり うまとび まりとり ゴムとび メンコ
猪狩町	川遊び 石けり メンコ ベーゴマ 缶けり ゴム飛び 釘さし
宝塚市	遊泳 魚捕り 魚つり(荒神川、武庫川) -
伊丹市	木登り 石けり 泥だんご作り イナゴ捕り パイ(ベーゴマ) ゴム飛び 陣取り 帽子とり 羽つき コマ廻し 缶けり ローセキ ごっこ遊び イナゴ捕り おじゃみ パイ 釘さし 杉鉄砲 ベッタン 輪回し カンカン 野球 ドッチボール
西宮市	キリギリス捕り 近所の探検 セミ捕り 海水泳(香櫛園浜) 山登り(甲山、北山) 缶けり 陣取り ちゃんばら 相撲 空気銃
神戸市	石けり 山菜採り 蓮華の花輪づくり ササ舟 セミ捕り 木登り 竹馬 リム廻し 石蹴り 缶けり かくれんぼ メンコ 縄跳び ケンパ 凧上げ 羽根つき 草相撲 竹とんぼ 竹鉄砲
洲本市	スケート 川泳ぎ 海泳ぎ かぶと虫・クワガタなどの虫取り リム廻し 鬼ごっこ 陣取り
緑町	小魚捕り 遊泳(為池、川) 山桃・アケビなどの採集 -
三原町	小川での魚捕り(浜辺の小川) メンコ
五色町	蛭狩り 山桃・マツタケ採集 石投げ 川飛びこみ 木の実採り れんげ摘み シジミ捕り どじょう捕り 城作り 海水浴 魚つり 魚紙芝居 レスリング かくれんぼ 相撲コマ廻し ベッタン ケンパ 凧上げ 水鉄砲 竹鉄砲 胴馬 ちゃんばら ターザンごっこ 鞍馬天狗ごっこ 竹馬 竹とんぼ じゃんけん進み 缶けり 縄跳び 陣取り
千種町	川魚とり きんま(ソリスベリ) メンコ
佐用町	山小屋作り 雑魚とり 竹スキー ソリ 雪合戦 山歩き 探偵ごっこ ぞうり隠し メンコ 野球 かくれんぼ ちゃんばら 死刑 ひも相撲 肝だめし 釘立て 戦争ごっこ おしくらまんじゅう 缶けり ゴム飛び
新宮町	魚捕り せみ(幼虫)とり 山すべり ササ舟流し 鬼ごっこ リム廻し メンコ けんばあ 杉鉄砲 紙鉄砲 兵隊ごっこ チャンバラ 羽根つき 竹馬 かくれんぼ 野球 ドッチボール 凧上げ
上郡町	魚捕り 雪合戦 水泳 かくれんぼ 缶けり ターザンごっこ 野球
相生市	家作り 魚つり 落下傘拾い(ペーロン祭り) めんこ 釘立て コマ廻し 缶けり 胴馬 相撲 野球 凧上げ 缶けり
姫路市	木の実拾い うなぎ捕り 木馬 川飛びこみ 山いちご採り 鬼ごっこ かくれんぼ
香寺町	クワガタ・カブト虫捕り 水泳 胴馬 ターザンごっこ メンコ 水鉄砲 竹馬 コマ廻し 野球
福崎町	馬乗り つり 川泳ぎ セミ捕り 木登り 石彫り とりもち捕り(竹にとりもちをつけて昆虫を捕まえる) リム廻し パッチン 凧上げ コマ廻し 竹馬 おしくらまんじゅう メンコ 鬼ごっこ 竹とんぼ 缶けり 釘さし 地面とり ドッチボール アンタガタドコサ 羽根つき 縄跳び
加西市	雑魚捕り 雪合戦 コッチン パッチン コマ廻し 縄跳び 凧上げ
加古川市	水泳 魚捕り 虫取り かくれんぼ パッチン(メンコ) 三角野球 竹馬 陣取り コマ 凧上げ 胴馬 縄跳び
小野市	魚つり 魚つき セミ・トンボ捕り メンコ 缶けり コマ廻し 凧上げ 竹馬 鬼ごっこ かくれんぼ 野球 戦争ごっこ おしくらまんじゅう 相撲
稲見町	たにし捕り 鬼ごっこ かくれんぼ メンコ
明石市	タニシ捕り パイ 海水浴 魚捕り 帽子とり じゃんけん ベッタン パイ 胴馬 缶けり 野球 コマ廻し 竹馬競争

(下線は親世代にのみみられた遊び)

親世代

子ども世代

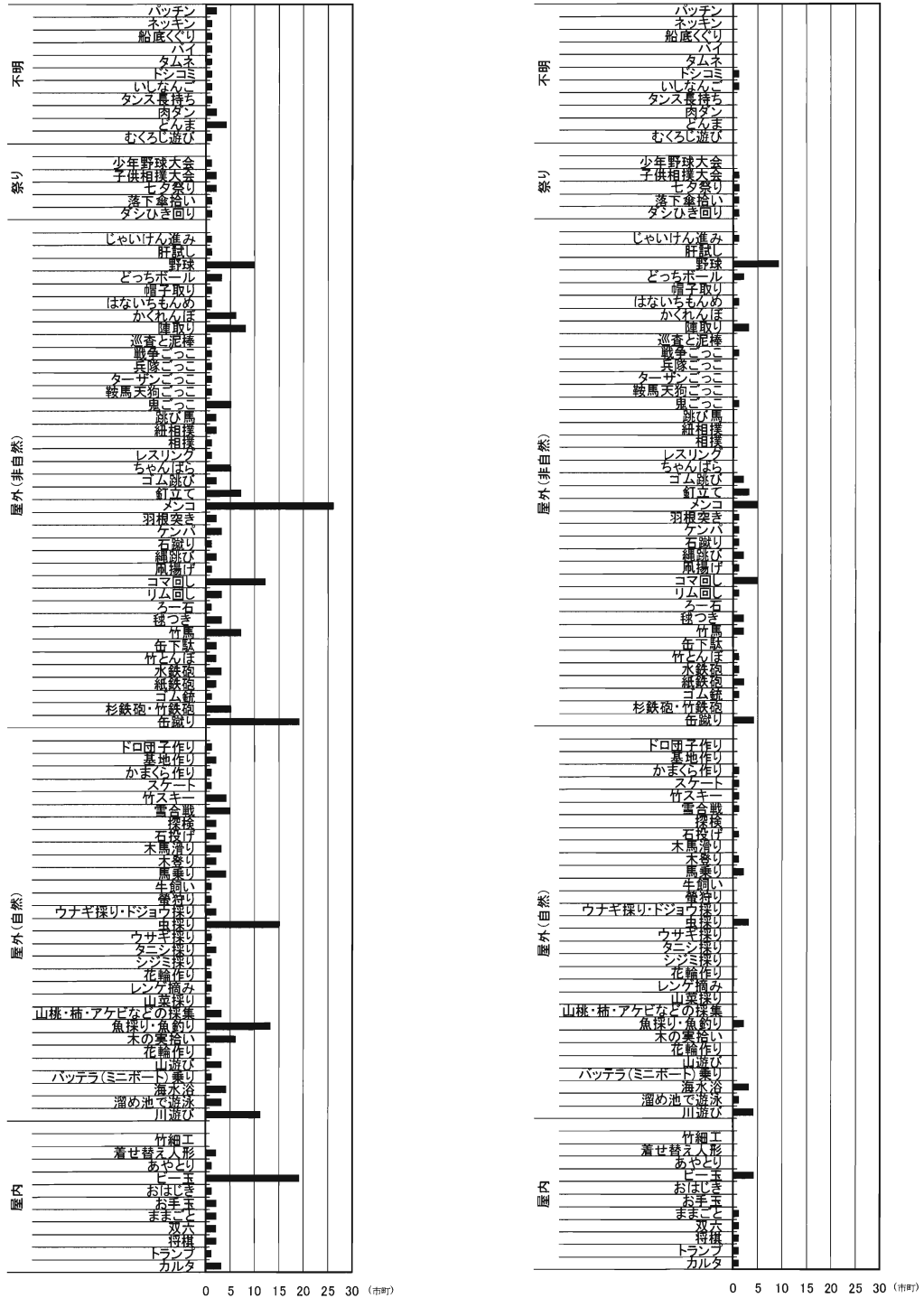


図2 「親世代」が子どもの頃の遊びと現在の「子ども世代」の遊びの比較

える。まず、川遊びの代表的なものとして、水泳と魚釣りが挙げられたが、水泳については「もともと学校にプールがなかったので、泳ぎは川で学んだ。しかもそれは学校の先生ではなく、上の学年の人から学んだ。それだからかっこ悪い泳ぎ方だけど、深く潜れたりする力は結構ついたように思う。」との回答から、泳ぎを学ぶ場として武庫川が使われていたことがわか

り、さらにこのことは、学校の先生ではなく学校の先輩が指導者となって遊びが継承されていたことを示している。また、魚釣りでは「つけ餌にキャベツに付く青虫を使ったり、ミミズやマツムシ、イナゴやバッタなどを叢でとって使ったりしていた」との発言からもわかるように、周辺で採集した昆虫類を釣りのえさにしていることから、単に川遊びは河川空間のみで完結

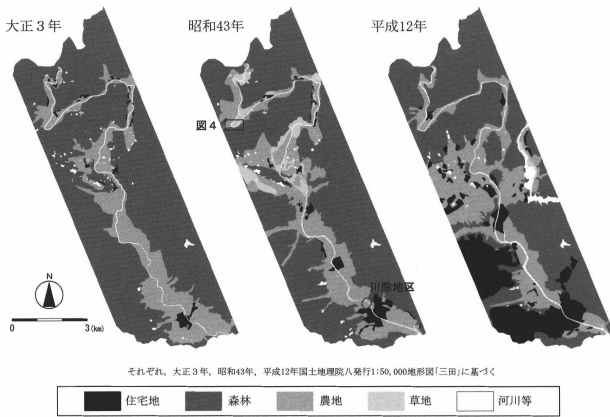


図3 三田市の武庫川流域における土地利用の変化

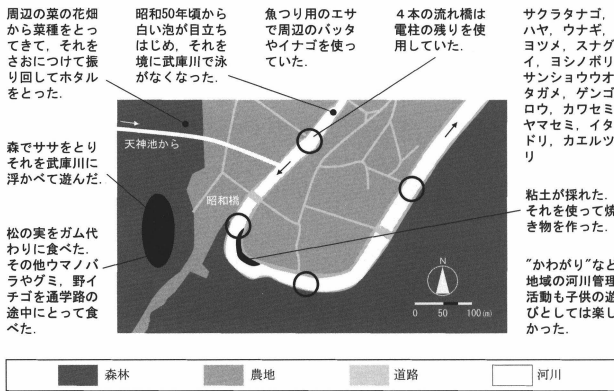


図4 親世代の武庫川（「曲がり」地区）周辺の環境とそこにおける遊びとの関係

するものではなく、周辺環境と連動して起こるものであることがわかる。こうした周辺環境との関連の中で起こる遊びとしては他に「森でササをとりそれを武庫川に浮かべて遊んだ」「武庫川にいるホタルを周辺の菜の花畑から菜種をとってきて、それをさおにつけて振り回してホタルをとった。周辺にホタルはいくらでもいるので、僕達は採ることに楽しみを感じていた」

「川底にある泥を使ってそれをつかって焼き物を作った経験がある」「ここらへんには使わなくなった電柱を使って4本の流れ橋を設置していた。当時の電柱は木造で自然にやさしかった」などが挙げられる。これらの中で、「ホタルが出現する周辺環境」や「泥質の川底」といった語りは、当時の環境を想起させる貴重な情報だといえる。また、「かわがり」や「みちづくり」という川の掃除などが行われていた。これらは大人がやっていたけど子供にとってみるとそれも楽しかった」とあるように、大人の河川管理行為が子供達にとっては遊びとして受け止められているところが特徴として挙げられる。さらに、植物や昆虫も多様で、「サクラタナゴ、ハヤ、ウナギ、ヨツメ、スナグイ、ヨシノボリ、サンショウウオ、タガメ、ゲンゴロウ、カワセミ、ヤマセミ、イタドリ、カエルツリ」などが

語りの中で確認された。その中でも「松の実をガムがわりにして食べたり、たんぼの畔にあるグミや野イチゴを食べたりして育った」との意見からもわかるように、周辺地域にある自然の恵みをその場で食べながら遊んでいたことが伺える。

一方、現在の遊び及び遊び空間について捉えたと、図3の土地利用を見る限りでは、河川の付け替え工事といった大きな改修は少ないと判断できるが、三田大橋上流の川除地区などでは（兵庫県，2000）、拡幅工事や護岸整備が周辺住民の生活の安全性の確保という面から行われてきた。地元の人も「雨の多い時は洪水が起これ危険」「河川の幅が広がったことや水深に変化が無くなった」「昭和50年代頃に上流部から白い泡のようなものが流れてくるようになり、汚いので川へ遊びに行くのをやめた」と回答しており、空間の変化や水質の悪化が読み取れる。しかし、一方で「学校やPTAで川遊びを禁止している」など、空間的な変化だけでなく、子供の安全性といった観点も子どもの川への関わりを遠ざけていることもわかった。

以上のことから昔の遊びの特性としては、河川単独ではなく、たんぼや森といった周辺環境を一体的に使った遊びが中心であったことを挙げることができる。また、遊びは学校の先生ではなく、学校の先輩から学ぶことの方が多かったことも明らかにされた。さらに、食べられる木本や草本の存在や日常的な河川管理作業も遊びに繋がっていることが伺えた。しかし、現代へ移行してくるにつれて河川空間の単調化や水質の悪化によって川遊びは減少し、また、学校教育においても川への接近を禁止する動きもあり、これに拍車をかけていることが伺えた。

おわりに

今回の調査では、兵庫県全域の自治体を対象に、親世代と子ども世代における遊びの変化の実態を把握するとともに、特に武庫川を対象として、そこでの遊びと環境の変化の関係について捉えた。その結果、兵庫県全域では、自然遊び、特に川遊びが減少してきている実態が、また、武庫川上流域での遊びにおいては、単に河川だけではなく森林やたんぼなど多様な土地利用が一体的に使われていたことが伺えた。具体的には、武庫川で釣りをする時のえさを周辺環境で採集したり、川底の泥を用いて焼き物をつくるといった活動が挙げられる。以上のような結果を三田で活動しているプレイリーダーとともに活用してゆき、今後の三田での川遊びの展開につなげていきたい。

謝 辞

アンケート調査でご協力頂いた各市町のまちづくりに関わっている企画関連部局の方々、ヒアリング調査でご協力頂いた三田市民の方々、三田市企画財政部広報広聴課の村上隆蔵氏、久後英世氏、三田市企画財政部企画管理課の谷口雅彦氏に深く感謝いたします。

文 献

安藤正隆・松本直司(2000) 都市内公園の水景施設における子供の遊び行為と空間条件の関係—名古屋市内公園での調査分析—。第35回日本都市計画学会学術研究論文集, 637-642。
後藤知朝子・下村彰男・熊谷洋一・小野良平(1996) 林試の森、小石川植物園における子供の遊びと空間特性との関係に関する研究。ランドスケープ研究, 59(5), 137-140。
兵庫県(2000) “神戸三田” 国際公園都市30年の歩み。三田市、

兵庫, 24-25。
神吉紀世子・若生謙二・宗田好史(1999) 個人史からみた大阪市西淀川区における地域環境の変容構造。ランドスケープ研究, 62(5), 483-488。
小谷幸司・柳井重人・島田正文・丸田頼一(1999) 幼稚園における園児の自然とのふれあいに関する基礎的研究—東京都におけるケーススタディー—。第34回日本都市計画学会学術研究論文集, 55-60。
小谷幸司・柳井重人・丸田頼一(2000) 幼稚園児の自然とのふれあい空間としての公園緑地の役割に関する研究。第35回日本都市計画学会学術研究論文集, 619-624。
三田市(2002) 第三次三田市総合計画「輝き三田21」。三田市、兵庫, 104-105。
島村雅英・井手佳季子・伴武彦(2002) 横浜市におけるエコアップ地点の多面的評価に関する研究。環境情報科学論文集, no. 16, 153-158
丙 京祿(1995) 児童の自然体験の変化と地域特性との関連。ランドスケープ研究, 58(5), 245-248。
嘉田由紀子・遊磨正秀(2000) 水辺遊びの生態学—琵琶湖地域の三世代の語りから。農山漁村文化協会。人間選書, 東京, 210p。

(2003年7月31日受付)

(2003年11月19日受理)